

サブスクリプション提供で将来的な更新作業の負担を緩和 高度な DDoS 攻撃への対策を高いコストパフォーマンスで 実現する A10 Defend

顧客名:

株式会社石川コンピュータ・センター

業種:

情報通信業

A10 のソリューション:

A10 Defend による DDoS 攻撃対策

課題:

- 既存の DDoS 攻撃対策ソリューションが更新時期を迎える
- 既存機器の更新に膨大な費用がかかる
- 脅威インテリジェンスの活用含め、運用負担をさらに軽減したい

導入効果:

- フローコレクター含め従来構成をそのままに安定稼働を実現
- 基本設定を活かして大幅なチューニングが不要、運用負担の軽減に貢献
- インフラ維持に優しい省スペース設計と省電力を評価



株式会社石川コンピュータ・センター

クラウドビジネス本部 DCサービス部
部長 南川 浩栄氏



株式会社石川コンピュータ・センター

クラウドビジネス本部 クラウドサービス課
主任 守田 淳一氏

“最初に価格を提示いただき、サブスクリプションでの契約が可能だ
とご提案いただきました。
予算感はピッタリで、我々としても導入しやすいと考えました。”

クラウドビジネス本部 DCサービス部 部長 南川 浩栄氏

“テストでは DDoS 攻撃となる SYN アタックを実施しましたが、
通信を止めることなく稼働させることができました。
正直こんなにあっさり動くものかと驚きました。”

クラウドビジネス本部 クラウドサービス課 主任 守田 淳一氏



最新の IT を駆使して顧客に総合的なソリューションを提供している株式会社石川コンピュータ・センターでは、データセンターを基盤とした ISP 事業に関連した各種ソリューションにおいて、脅威が高まる DDoS 攻撃への高度な対策を実施しています。セキュアな環境づくりに不可欠な DDoS 攻撃対策に向けた基盤として、A10 ネットワークス (以下、A10) が提供する「A10 Defend (旧 A10 Thunder TPS)」を採用しています。

課題: 既存の DDoS 対策の機器更新が大幅なコストアップに

1972年に設立し、自治体や医療機関など業界特化のソリューションから、SaaSをはじめとしたクラウドサービスやBPO含めたデータセンター事業など、地域のISP事業者として幅広いソリューションを提供している株式会社石川コンピュータ・センター。石川の地に広帯域なネットワークと強固なデータセンターを持ち、マネージドサービスやパブリッククラウドへの接続など顧客に求められる各種ソリューション提供に注力しています。直近では広帯域なネットワークとパブリッククラウドへの安定した接続が可能なソフトバンク系のクラウド型ネットワークサービス「Open Connectivity eXchange」の西日本におけるデータセンターの1つとして、快適なネットワークサービスの拡充に取り組んでいます。「スマートデータセンター」をコンセプトに、県内にあるほぼ全ての自治体と接続可能なデータセンターを運営しており、高い信頼性や安定性に対する評価をいただいています。加えて、顧客の課題解決につながる提案力を武器に、お客さまの情報基盤を下支えしています」とクラウドビジネス本部 DCサービス部 部長 南川 浩栄氏は語ります。

同社では、以前からビジネス基盤として運営するデータセンターにおいて、DDoS 攻撃への対策を実施してきましたが、この環境の更新時期を迎えるにあたり新たな環境への刷新を目指しました。「既存環境で利用してきた DDoS 対策の機器を更新する際に、導入時に比べて大幅なコストアップになることが分かりました。そこで、他社のサービスも含めて調査してみようと考えたのです」と同部クラウドサービス課 主任 守田 淳一氏は当時を振り返ります。

検証: コスパに優れ、フローコレクター連携や脅威インテリジェンス活用も可能な点を評価

新たな環境では、最低でも10Gbpsほどのパケット処理ができるものを中心に検討し、機能面では使い勝手のいいフローコレクターであるGenieATMと柔軟に連携できるものが求められました。

そこで選択肢の1つに挙げたのが、GenieATMとの連携実績が豊富なA10 Defendでした。

既存のDDoS対策ソリューションをかつて選択したのは、DDoS攻撃のミチゲーションフィルタが自動生成でき、運用負担が大きく軽減できる点を評価したためです。「A10 Defendは、このフィルタを自動生成するだけでなく、脅威インテリジェンスサービスからブラックリスト提供が行われるため、より運用負担が軽減できると考えました」と守田氏は言います。既存のソリューションの場合、脅威インテリジェンスの利用に別途高額な費用が必要になるため、自前でフィルタを運用することを余儀なくされていたのです。

また、コスト面においても予算規模に十分マッチしたソリューションでした。「弊社ではA10 Thunder CFWを別の環境で導入していることから、コストパフォーマンスの良さは理解していました。しかも、資産として保有せずに利用できるサブスクリプション契約が可能であり、ハードやソフトの更新負担も軽減できるライセンス体系のお陰で経営層にも話が通じやすかったです」と南川氏は評価します。サブスクリプション契約により必要なタイミングで最新機種への交換が可能になるなど、移行の負担を気にする必要がなくなったのは大きな成果だと語ります。

A10 Thunder CFWの導入実績があったことから、安定した稼働とインターフェースの使い勝手の良さも評価しています。「機能ごとにタブで分けられブルダウンで設定できるなど直感的なGUIについても使い勝手がいいと判断しました」と守田氏。マニュアルを読み込まなくとも、設定すべきところに設定項目がきちんと用意されているなど、分かりやすさに好感を持っています。普段はCLIでの設定が中心ですが、分析時にはGUIを利用する機会もあるため、直感的に操作できる点を評価し、新たなDDoS対策のソリューションにA10 Defendを選択しました。

ソリューション：フローベースで検知、強固なDDoS攻撃への対策を実現

5段階の適応型緩和ポリシーやゼロデイ自動保護などで高い効果を発揮するA10 Defendは、AI/機械学習によってDDoS攻撃を検知・緩和し、大規模なDDoS攻撃からネットワークを保護することが可能です。NetFlowやsFlowなどのフロー情報をもとに攻撃を検知し、専用のアプライアンスとしてハードウェアや仮想アプライアンスでの提供を実現します。また、攻撃の状況もリアルタイムで把握することで、迅速な対処が可能となります。

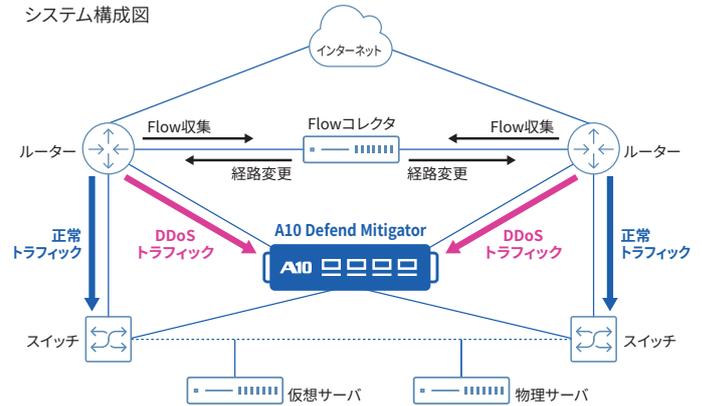
導入効果：運用負担の軽減と安定稼働を実現、省スペースや省電力もビジネスにプラス

現在は、インターネットとの通信経路においてアウトラインでA10 Defendが設置されており、フローコレクターでDDoSトラフィックを検知した際にA10 Defendへトラフィックを流していく構成となっています。「テストではDDoS攻撃となるSYN攻撃は実施しましたが、通信を止めることなく稼働させることができました。正直こんなにあっさり動くのかと驚きました」と守田氏は言います。

すでに導入して数ヶ月が経過していますが、日々の運用で特別なことは行っていません。「機器の死活監視をする程度で、特にチューニングすることなく基本の設定で運用できています。閾値の設定は、絞りすぎると正常なパケットも止めてしまったり、緩いと被害を受けてしまうなど、調整がとても難しい。何度もチューニングする必要がある他のメーカーに比べて、A10 Defendは導入や運用がとてもしやすいく」と南川氏は高く評価します。また、運用面ではGUIで攻撃の種類が詳細に把握できるため、解析に手間をかけることなくすぐに状況把握ができる点も評価が高い要因の1つだと守田氏は語ります。

脅威インテリジェンスの提供についても、常にオンラインで自動的に情報が得られ、常に最新情報にアップデートされるなど、手離れがいいソリューションだと評価します。「スマートデータセンターとして省力化や自動化に

システム構成図



取り組んでいるため、運用メンバーも少数精鋭です。手離れの良い、手間のかからないソリューションを常に求めており、A10 Defendはまさに我々にとって最適なソリューションです」と南川氏は力説します。

ハードウェアについては、省スペースな設計も好評を得ています。「高いスペックを持っているにも関わらず非常に省スペースな設計です。以前導入していたソリューションは3Uほどのスペースが必要でしたが、今は1Uのスペースで運用できています」と守田氏。顧客に転嫁しづらい自社のインフラだけに、省電力設計であることも見逃せないポイントだと語ります。

A10に対しては、直接対話できる環境が提供されており、真摯な姿勢で問題を一緒に解決してくれたと南川氏は評価します。「ことあるごとに声をかけていただけますし、一緒にソリューションを作っていくことに尽力いただけるなど、信頼関係をしっかりと築いていただけた点が何より安心でした」。困りごとがあればいつでも相談に乗ってくれるだけでなく、提案活動も含めて親身になってくれる、といったディストリビューターからの評価も届いていると守田氏は言います。

今後の展開：外販を含めたA10ソリューションの拡張とIPv6移行に向けたパートナーとして期待

今後については、A10 Defendによってセキュアな環境を維持しながら、すでに導入しているA10 Thunder CFWの拡張を計画しています。また、IPv6への対応についても検討を進めており、豊富なIPv6ソリューションを持つA10に対して期待感を高めています。「単に自社の製品を売るためではなく、我々が困っていることに対してどんなソリューションが適しているのか相談に乗っていただいています。特にIPv6に関してはA10も業界全体にも関係していることから、仕様に合致したソリューションを提供いただけており非常に安心感があります」と守田氏はA10に対して期待を寄せています。

また、A10 DefendによるDDoS攻撃対策については、いずれ顧客向けにも展開を検討しています。「GUIが直感的なことからレポートが提供しやすく、顧客向けのサービスにも展開しやすいこともA10 Defendを選択した理由の1つです。A10 Defend上でテナントを分けて顧客向けに提供することも視野に、新たなサービス展開に向けて今後ともA10には協力いただきたい」と今後の抱負について南川氏に語っていただきました。

■ A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks は、オンプレミス、ハイブリッドクラウド、エッジクラウド環境における、セキュリティ、インフラストラクチャの課題を解決するソリューションを提供しています。大手グローバル企業や通信、クラウド、Web サービス事業者まで7000社以上のお客様に導入いただけており、ビジネスに不可欠なアプリケーションやネットワークの安全性、可用性、効率性を高めています。A10 ネットワークスは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本社を置き、世界中のお客様にサービスを提供しています。A10 ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークソリューションをご提供することを使命としています。詳しくはホームページをご覧ください。

- URL : <https://www.a10networks.co.jp/>
- X (旧 Twitter) : <https://twitter.com/a10networksjp>
- Facebook : <https://www.facebook.com/A10networksjapan>

記載された内容は2023年9月時点の情報です。

Learn More
About A10 Networks

お問い合わせ
[A10networks.co.jp/contact](https://www.a10networks.co.jp/contact)

A10 ネットワークス株式会社
www.a10networks.co.jp

©2023 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networksは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記の全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標について詳しくはホームページをご覧ください。 www.a10networks.com/a10-trademarks Part Number: A10-CS-ICC-01 NOV 2023